外国籍の子ども達を中心に置いた

多文化共生のまちづくりプロジェクト

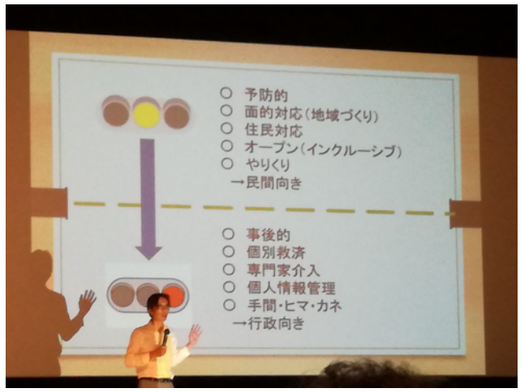
外国から来た世帯が比較的多い、小山市で工場勤めのお父さん（主に）に連れられて来た、子ども達や女性の方々が社会とつながり、社会の力になっていくために必要なことを考え、可能な限り実行して行けるような環境づくりについて、話し合っています。

話し合いの中から、外部の協力者を得たりしながら、学習支援や進学支援など特定の話題領域で実行委員会が立ち上がるなどの動きもあります。

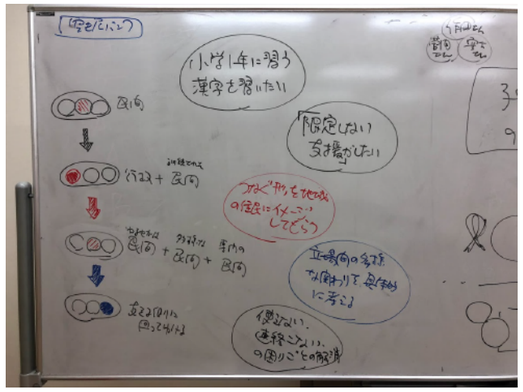
多分に政策や施策による環境づくりが大きな影響を与えることから、ミニ提言や、それにつながる基礎調査なども実行できるような仲間づくりも、合わせて進めています。

取り巻く課題を模造紙に書き出すワーク

中核的な関係者の方々にヒアリング



貴信号、赤信号、のお話を聞く



貴信号、赤信号を超えて、どのような社会をつくるのか

目標とする状態 その１

情報の多言語化

おーラジで、インターエフエムのような外国語ネイティブの人たちの番組が多様に作られ、放送される、その企画制作と提供の仕組みが確立している。

医療・保健・福祉

行政と医師会が協力して外国語を常用できるモデル・クリニックを試験運営し、そこで得られた知見を、一般の医院、病院、病棟の言語環境に生かす。

日本語・日本社会の学習支援

とびらの会やおいふぁ、国際交流協会の活動拠点が、明確化され、そこに至る紹介の経路も確立されている。

防災

利用者（各言語を母語とする外国人）の目線で防災マニュアルを今後も改版していく。

おーラジ（と音声でのケーブルＴＶ同報）での即応放送

居住

行政が住宅確保支援の基本方針を建て信用保証を図る。同時に不動産業者側も連帯、連携して外国人世帯の支援を行えるようにする。

その他

外国語表記による外国人支援のモデル・ショップを（ワーカーズコープとして?）設立する。もちろん日本人ウエルカムなショップとして。

目標とする状態 その２

教育

父親、母親のそれぞれに適した社会参画の場面が用意されることで各教育場面の文化的分断を緩和し、外国人の社会理解、全住民の多文化理解を

地域社会の意識啓発

多文化共生まつりを、国際交流協会とおやま～る、その他の様々な立場が協力して実施する。

労働環境

被用者の健康と生活を守る面で雇用主や労働組合の組織や社会福祉や福利厚生の制度に多文化理解が浸透している。

グローバル化への貢献

小山の製造業に、外国の人々が多様な関わり方で、海外進出や海外との取引を応援したり協力する。

外国人住民の自立と社会参画

おやま～るをその役に立つ中心に据え、「ゼロからの仕事起こし」の専門をもつワーカーズコープが技術供与をして就労支援、起業支援を行う。

地域活性化への貢献

多文化なべ祭りのような、市民と触れ合う直接的な交流の場を生み出す仕組みをつくる。

多国籍商品等を扱う店舗や事業者のネットワークがある。

小山市市民活動センター

おやま～るの
「ネットワークづくり」
プログラム

登録団体や市民の方々が、様々な形で、社会に必要とされる事業を担われています。そうした担い手団体が繋がることで大きな力を発揮することを期待し、活動のネットワーク化を図っています。これまで相談等を受けた対象領域としては「市民による地域の防災」「市民農園と家庭菜園の担い手と貸し手」「ママ支援／ママさん起業家の人たち」「貧困世帯の子どもやママの支援」「元気シニア交流の主催者と利用者」などがあり、団体の皆さんとセンターとでプログラムを作り上げていきます。